

文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想

～2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした文化芸術立国の実現のために～

趣旨

「文化芸術立国」の実現のために、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会及びラグビーワールドカップ2019の機会を活かすとともに、それ以降も多様な文化芸術活動の発展や、文化財の着実な保存・活用を目指し、組織委員会等と連携して、2016年秋から全国津々浦々で文化プログラムを推進

文化庁の取り組む文化プログラムを「文化カプロジェクト(仮称)」※として推進

※2021年以降も文化庁が推進するプロジェクト。都道府県・市町村等が文化庁作成のガイドラインに基づき「文化カプロジェクト(仮称)」を認定することを検討。

【「文化カプロジェクト(仮称)」の数値目標】

・20万件のイベント ・5万人のアーティスト ・5000万人の参加 ・訪日外国人旅行者数2000万人に貢献

文化庁が進める取組の三つの枠組み

我が国のリーディングプロジェクトの推進

- ▶日本の顔となるクリエイティブな文化芸術活動の推進(国立文化施設の活用等)
- ▶文化芸術について、人材育成の強化や教育、科学技術、医療・福祉等分野との融合によるイノベーションの創出を促進

国が地方公共団体、民間とタイアップした取組の推進

- ▶日本遺産、文化芸術による地域活性化に関する事業等の文化庁事業を推進
- ▶広域展開のプロジェクト、民間や地方公共団体の活動を牽引する事業等を支援

民間、地方公共団体主体の取組を支援

- ▶我が国の多様な文化芸術を継承、発展させる全国津々浦々の文化芸術に関する取組を支援

七つの戦略と推進体制

取組を進める七つの戦略

【異分野を巻き込んだオールジャパンによる推進体制】

戦略①: **企業・団体との協働**

企業によるメセナ活動が支援する取組との協働など、企業の資金や人材・ノウハウを活用。

戦略②: **地方公共団体、文化芸術団体等との協働**

地域の優れたプログラムに対する表彰を検討。都道府県等に「文化カプロジェクト(仮称)」を統括するコミッションの配置を推進。

戦略③: **組織委員会、オリパラ推進本部や関係省庁、国立文化施設との一体的展開、他分野との連携**

政府関係組織との緊密な連携。教育、医療・福祉、ものづくり、農林水産業、観光等様々な分野と連携。

【文化芸術の人材育成・確保、新たな文化芸術の創造】

戦略④: **大学、学生等の参画**

大学の教員、学生等による企画立案・実施、記録・評価。人材育成・イノベーション創出を促進。

戦略⑤: **新たな文化芸術の担い手を支援**

「文化芸術アソシエイツ(仮称)」の認定。将来の地域版アーツカウンシルによる雇用機会を期待。

【文化芸術の国内外への発信】

戦略⑥: **あらゆる人々の参加**

文化ボランティア活動の促進や啓発のためのシンポジウム等による機運の醸成。

戦略⑦: **国内外への発信、海外からの誘客**

ポータルサイト等を活用し国内外への広報を展開。

取組を進める推進体制

【文化庁の推進体制】

○文化庁に実行チームを結成。文化庁長官を顧問とし、文化庁職員、民間出身者等で構成。

○民間から全体を統括するゼネラル・プロデューサーを招き、その下に、広報、企画、地域・大学連携、ファンド・レイジングなど機能別のプロデューサーや文化芸術分野別のディレクターを置く。

○実行チームは、文化庁事業のマネジメントや、組織委員会、オリパラ推進本部や関係省庁、国立文化施設(国立博物館・美術館・劇場等)、地方公共団体、大学、企業・団体等との連携や調整を行う。

スケジュール

